

## Ⅳ その他

### 1 災害対策の通信に故意に妨害を与える者への対策

1995年1月に発生した阪神淡路大震災の時には、多くのアマチュア局が幾多の困難を乗り越えて非常通信を実施していただきました。おそらく参加された方々は、自宅や親戚、友人の安否や職場の状況が気になる中での支援・協力であったものと思われます。

ところが、みんなが一生懸命努力して災害情報、災害救助のための非常通信をしている状況だったにも関わらず、故意に妨害電波を発射し続けた、人間として実に悲しい無線局が出現しました。

目の前にいる者ならば「すぐに妨害を止めろ」と静止させることができますが、電波による妨害ですので、どこにいるかも分からず、「妨害を止めてください」と言っても言うことを聞きません。非常通信に参画された方々の苛立ち、悔しさ、虚しさは想像を絶するものであったと思います。

困り果てたアマチュア局の方々は総合通信局に妨害排除の申し出でを何度も行ったそうですが、機能障害があったのか、他の業務が多忙なのか要員が不足していたのか、なかなか動いてくれず、その間も妨害電波は止まることはなかったとのことでした。

執拗な妨害電波は、やがて総合通信局の電波監視機関が探査活動を開始したことを知ったことで止まったようですが、違法・不法局の排除は総合通信局の役目として、直接取り締まる行為は行政でしかできないものの、アマチュア無線界にとっても非常通信に対する妨害排除を何とかしなくてはなりません。

そこで、非常通信に参画されていないアマチュア局は、非常通信を実施している周波数を極力ワッチし、もし非常通信に妨害を与えている局が発生した際には、ビームアンテナを駆使して到来方向を総合通信局の監視課に通報するとか、ビームアンテナがない場合には受信した電界強度の値を監視課に通報することをお勧めします。

非常通信を行っている局にだけ任せるのではなく、多くのアマチュア局が非常通信の円滑な実施のバックアッ

プをすることが必要であり、多くの情報を違法・不法電波の取締りを行う総合通信局に報告し集約することによって、総合通信局を動かす力になるのではないかと思います。



ご承知のとおり、各地方総合通信局にはデューラスという方向探知機能を有する監視機能が整備されていますが、デューラスは商用電源で働いており、設置した場所から専用線で各総合通信局にデータが送られるような仕組みになっています。そのため、巨大地震等が発生して停電になったり専用線が切断されると、デューラスそのものの機能が全く働かなくなってしまう。一方また、そのデューラスは妨害電波よりさらにひっ迫した人命救助の通信の疎通を確保するための業務をしているかも知れません。

このようなことから、巨大地震等が発生した際には、直接非常通信を実施する場合のほかは極力非常通信の実施状況を聴き続け、みんなの力で円滑な非常通信が実施できるようバックアップすることが極めて大切です。

### 2 日頃からの災害対策の重要性の意識啓発

今の瞬間にも巨大地震が発生するかも知れません。日本という地震多発国に住んでいる以上、いつ地震が発生しても被害を軽微にし、動揺せず、適切な対応を取れるように心がけなければなりません。



各家庭の地震対策，地震対策用品の備蓄，緊急持出し用品の整備，避難場所の点検とルートの確認など多くの防災対策があります。ことに一刻の猶予もならないのが，地震発生に伴う津波からの避難場所の確認と家族の認識です。

ぜひ，各家庭や職場で仲間との間で日頃から防災対策について話し合い，相談をして防災意識を持つように心がけていただきたいと思います。

(参考)

## 1 サンフランシスコ地震災害電気通信調査団の「米国におけるアマチュア無線非常通信実態調査報告」から

郵政省(当時)では，災害対策の一層の充実を図るために1989年10月に発生したサンフランシスコ地震災害の実態を調査する「サンフランシスコ地震災害電気通信調査団」を1990年1月30日から2月9日までの間派遣しておりますが，その調査団の一員として，郵政省からの要請により当連盟の有坂理事が同行し，「米国におけるアマチュア無線の非常通信」を調査しておりますので，その中の記述の一部を御紹介します。

(1) アメリカでは，RACES(Radio Amateur Civil Emergency Service)というアマチュア無線民間非常通信業務というものが設けられている。

(2) RACESでは，1年間に何回かの会合，訓練を実施しており，毎月平均8時間程度を要するという少々負担が重いボランティアである。訓練等に参加しない者はRACESメンバー登録が抹消される。

(3) サンフランシスコ地震の教訓として

① いたずらに非常通信に参加することは，むしろ危険で，正しい処理の仕方の訓練が重要なポイントである。

② パケット通信が威力を発揮した。その理由は，

- ・1回のインプットで受信側が随時情報を得ることができる。
- ・送信時間が短縮でき，多くの情報を伝達できる。
- ・人から人への聞き伝えでないので，正確な情報を伝達できる。

・自動転送が可能であり，小電力によって遠距離との通信が可能である。

## 2 サンフランシスコ地震の教訓

インターネットにはサンフランシスコ地震の教訓等が多数掲載されておりますが，その中の幾つかを紹介いたします。

○ 大地震に直面すると，ほぼあらゆる人が初期には自失状態に突き落とされる。あまりの異常事態に対処する能力を失う。

○ 地震直後にはどこにも責任者など居ない。自分がまず行動を起こすこと。でないとい何も始まらない。

○ 援助したいなら(どうして欲しいか)聞け。助けて欲しいなら(どうしてもらいたいか)言え。地震は恥ずかしがったり遠慮している場ではない。声をかけ合うという極めて簡単なことだが，群集はいるのにボランティアがいけないという事態は容易に解消される。

○ ショックと混乱が支配する中で災害時の行動のほとんどは模倣から始まる。最も有効なリーダーシップは例を示すことだ。

○ 人はまず何か自分にできることをやりだすことで少しずつ自己を回復していく。

○ 大地震の真ただなかでは，居合わせた現場の人々が急速にボランティア化し，これが救助の主役になる。

○ 防災診断チームが活躍できたのは，日頃地震を想定して防災診断チームを編成し，チェック票や指示書による訓練を実施していたから。